



男女共同参画情報コーナー
わたしたちの望む社会へ



皆さん 男女共同参画という言葉をご存知ですか。
薩摩川内市では、平成17年4月「男女共同参画基本条例」を施行しました。この中で、一人一人の人權が尊重され、多様な生き方が選択でき、個人の多様な能力が発揮される社会を目指しています。
※「とらいあんぐる」とは、参画(さんかく)と三角(さんかく)を掛けています。「市民・行政・地域」「教師・児童生徒・保護者」「上司・部下・自分」etc…。いろいろな社会において、常に三者(三角)の関係はとても大切です。お互いがトライアングルのように響きあいながら、理解し合えるような社会を築けるようにとの願いが込められています。

Q2「性別にかかわらず」とはどういうことですか。
A2 ありのままの、その子らしさを受け入れることです。

私たちは、「女は議を言うな」「男のくせに言い訳なんかするな」と、子どもの話に耳を傾けず、ありのままの子らしさを受け入れないことが、実は多いのではないのでしょうか。
「女らしさ、男らしさ」の押し付けや、他者との比較は、その子の個性を、ひいてはその子自身を否定することにつながります。大人の期待する理想の「子ども像」に傷つき、自分の気持ちを押し殺したり、偽りの自分を演じようとしたりする子どもも少なくないのです。自分の気持ちは自分のもの。その子が感じた気持ちを表すことは、自己表現のためには大切なことです。

男女共同参画と [特集] 子どもの人權

この特集は、とらいあんぐるの編集員である鹿児島純心女子大学学生サークルS&Iの室屋いさんと隈元里紗さんの企画・執筆によるものです。

Q1 どうすれば自尊感情は育まれるのですか。
A1 それは、その子の話を「聴く」ことです。

普段、子どもたちが感情や考えを最後まで話しきることを待たずに、私たちは答えや結果を出そうとしていくことが多いのではないのでしょうか。
「聴く」とは、心で聴き、相手の心を聴くことをいいます。途中で遮ることなく、否定することなく、共感

しながら最後まで聴くことによって、向き合ってくれている大人がいる、大切に扱われていると、子どもたちは実感するのです。このことは、その子の人權を尊重することにもつながります。

また、親や周囲の大人に話を聴いてももらうことによって、子どもたちは自分の気持ちを言語化しようとし、コミュニケーション能力が高まります。例えば他人から何か嫌なことをされた時に、「自分はこんなことをしてほしくない、やめて欲しい」と、相

手に率直に自分の意思を伝えて、自分の心と身体を守る時に生きてくるのです。

「自分は生まれながらにして、生きていながらも価値があり尊い存在なのだ」という自覚は、その人自身の生きる力の源となります。しかし、私たちは、いつの間にかその尊さを忘れてはいないでしょうか。
子どもは「性別にかかわらず、大切に育てられる権利があります。そして、大切にされることによって初めて、自分がかけがえない存在であることを認識でき、そのことから他人を尊重できるようになります。自分のことを大切に思う自尊感情の育ちなくして、他人の尊重は不可能なのです。

私たちは、一人一人、個人として存在しています。性別にかかわらずなく、一人一人が自分を主体的に生き、その個性を発揮でき、人權を尊重されること。それが、男女共同参画社会が目指すものです。

「性別にかかわらず子どもの話を最後まで聴く」に関して、具体的なエピソードを集めたので、紹介します！

「聴いてくれた」ことで、安心できた
小学生の時、夏休みの創作課題を

小学生の時、夏休みの創作課題を

「聴いて欲しい」という気持ちを奪われる
幼い頃から続く、「だめなやつ」「殴るぞ」といった父からの度重なる暴言。「家長である自分に逆らうな」「妻や子どもは父親の言う事をきくべき」といった態度に抑圧されてきました。その日学校であった出来事、友達や部活の事、悩み事を話したいと思っても、家族が父から暴言を浴びせられているのを見聞きして、何も言えない日々が続きました。いつしか、「自分の話を聴いて欲しい」と思えなくなりました。また、身体が弱い兄と比



大学生になり、彼氏に自分の考えを伝えられず、悶々とした日々を送っていました。母に聴いてもらえた経験は、彼氏とのぎくしゃくした関係に対し、「私って大切にされていないのかな」と気付くきっかけになりました。このままではいけないと思い自分の気持ちと向き合い、率直にその気持ちを彼氏に伝えました。(20代女性)

